

# 男女共同参画都市宣言関連事業

## 男女共同参画都市宣言記念講演会

令和6年度は、男女共同参画都市宣言を記念する講演会を9月に開催しました。

- ◆日 時：9月28日（土）  
10:00～12:00
- ◆会 場：福津市役所別館 1階大ホール
- ◆参加者：32名
- ◆演 題：「今の世の中、男女平等じゃないの？～無自覚なジェンダー・バイアスに気づくために～」
- ◆講 師：富永 明子さん  
西日本短期大学保育学科 教授・学科長、臨床心理士、フェミニストカウンセラー

9月28日、男女共同参画都市宣言記念講演会を行いました。

講師は、臨床心理士、公認心理師、フェミニストカウンセラーであり西日本短期大学保育学科長の富永明子さんをお招きしました。

今回の参加者は、32名。多くが50代以上の女性で男性が少なかったのが残念でした。

講演テーマの「ジェンダー・バイアス」とは、男女の役割について、無意識に固定的な観念を持つこと、社会的・文化的に差別や偏見があり差別的であることです。私たちは「ふつうは〇〇」という言い方を日常的に使います。それが、無意識に周りの方を傷つけていることもあることに気づかされました。

参加者からは、これから勉強していくという方や生活の中で実践するきっかけになったなどの感想をいただき、参加者それぞれが気づきのヒントを得られた講演会になりました。

市は、このような講演活動などを通じて、誰にとっても生きやすいこれから時代を創るために、今後も啓発を続けていきます。



## 「男女がともに歩む」一行詩

### 優秀作品

小・中・高校生の「男女がともに歩む」一行詩優秀作品の表彰を、12月7日（土）の人权講演会の冒頭に行いました。  
(※学校名・学年は令和6年度現在)

#### 【小学生の部】

●阿部 明来さん（勝浦小学校5年）

別々の道ではなく  
共に歩く一本の道

●白川 波さん（上西郷小学校5年）

好きに生きよう、自分と、ともに

●桑野 羽菜さん（神興小学校4年）

人生は 自分の たからもの

●魚住 唯菜さん（神興東小学校6年）

わたしだって  
かっこよくなりたい！

●青山 泰志さん（津屋崎小学校5年）

男だろうが、女だろうが関係なくない？  
だって大切なのは「自分らしさ」だから

●三浦 煌平さん（福間小学校4年）

男と女は関係ない  
やりたいことは自分しだい

●川端 菜々恵さん（福間南小学校5年）

男だったらな 女だったらな。  
「いいや」今のあなたが、すばらしい。

#### 【中学生の部】

●上夷 花音さん（津屋崎中学校3年）

男女のボーダー 取っ払い  
「あなた」の力が 未来に輝く

●村上 舞衣さん（津屋崎中学校3年）

「育休をとります」は  
女性だけのセリフではありません

●高橋 みちるさん（福間中学校3年）

将来の夢  
女子だからといって 諦めない  
好きな職業で働く 未来の自分に

●藤井 宇宙さん（福間中学校3年）

「あなた」はあなた  
「じぶん」はたくさん

●向笠 文菜さん（福間東中学校3年）

家事苦手？ 僕がするよ 得意だし

●河口 鮎介さん（福間東中学校2年）

性別を見る社会から  
個性を見る社会へ

#### 【高校生の部】

●上田 真門さん（光陵高校1年）

手を取り合い 違う色で描く 未来地図

●米満 栄さん（光陵高校1年）

変わってる？ 自分の個性 唯一無二

●立山 輝一さん（光陵高校1年）

咲かせてよ 1つの人生 個々の色

●岡崎 心南さん（水産高校1年）

“手伝う”ではなく  
一緒にやろう  
家事育児

●玉井 悠嗣さん（水産高校1年）

「男らしさ」  
「女らしさ」よりも  
自分らしさの方が一番大切

●小島 奏芽さん（水産高校1年）

区別より 個性を出して 作る社会

## 「男女がともに歩むまちづくり」 推進モデル

家庭、地域、職場、学校などで「男女がともに歩むまちづくり」を積極的に進めている市民や団体、事業者などを「推進モデル」として推奨しています。

推奨式を、12月7日(土)の人権講演会の冒頭に行いました。

### ◆本郷 由紀さん

#### 《推奨理由》

本郷さんは、大分県の「久住ワイナリー」で約3年間、ワインについて修行し、2021年から福津市本木でワイン用のブドウの栽培を行っています。

就農のきっかけは、ワインが好きだから。自分で一からやってみよう決意され、生まれ育った福津市で休耕地(6反)を借り、土作りから始められました。ワインとなるブドウが商品化(出荷)されるのは、2025年ごろとなり、それまでは夜間のアルバイトをして、生活を続けていらっしゃいます。

福津市では、本郷さん以外の女性の新規就農者はいらっしゃらないと伺っています。本郷さんの今までの就労先も男性が多い職場で、重い荷物運びも任せられ良い意味で女性扱いされなかったそうです。

しかし、今は何でも一人でやるしか無いため、草刈り機等の機械のメンテナンスは自分でできるようになったものの、どうしても重たい物を運ぶ際は助けが必要になってきます。その時は、知り合いを呼び「お互い様の精神」で助け合って農業を続けられています。

試行錯誤していく農業は、クヨクヨしない自分に合っていると本郷さんは話されます。

その他、罠や猟銃の免許を取り猟友会にも入会され、イノシシ等の害獣から福津市の農地や作物を守るため、毎週メンバーと共に活動されています。

女性として、畑でのトイレの問題や農業という男性が多い業界で女性特有の悩みが今後出てきたとしても、ワインを醸造しジビエと福津市産の野菜でレストランを経営したい、キャンプ場など子供も遊べる場所を福津市に作りたいという夢の実現のため、男女の性別関係なく努力されてあります。

